

第 15 回環境コミュニケーション大賞（環境報告書部門） Ver. 1 採点基準①ー 2（持続可能性報告）（平成 23 年版）

基本的に採点の便宜を考え、3. 2. 1. 0を付すこととする。ただし、小数点以下、一桁も可とする。

レベル判定については下記の例示的レベルだけでなく、各種ガイドラインや憲章などの記載項目をベースにして判定する。

1) 経営者コミットメントと仕組み MAX : 25 点

① サステナビリティの認識および経営責任者のコミットメント (7 点)

「3」 サステナビリティについて深い認識が表明されており、持続可能な社会形成とバリューチェーン全体を考慮した環境経営とその戦略についての確実なコミットメントと、経営資源配分等の約束が入っている、等

「2」 環境以外についてのコミットメントはあっても抽象的である、企業の持続可能性の認識はしめしているが、社会の持続可能性認識にまでは広がっていない、等

「1」 地球環境問題等一般論を述べておりコミットメントが明確でない、サステナビリティを狭く解し、環境技術開発的発想にとどまっている、等

「0」 コミットメントなし

② 低炭素社会への言及 (6 点)

「3」 ①とあいまって、低炭素社会を認識し、それに達する自社の 2050 年、2020 年代ビジョン・計画を明確にしている、等

「2」 低炭素社会を認識し、それに対する自社の方針策定に着手していることを明言している、等

「1」 低炭素社会は認識しているが、自社としてどうするかが明確ではない、等

「0」 記載なし

③ CSR マネジメント体制の構築等 (6 点)

「3」 CSR 推進体制を明確にし、グループ全社的に動かす仕組みが詳細に記載されている、等

「2」 CSR 推進体制を構築しているが、グローバルな推進体制にはいたっていない、等

「1」 CSR 推進体制の構築の必要性が認識されている、等

「0」 記載なし

④ SCM マネジメントに対する著しい取り組み (6 点)

「3」 一次納入業者に限らずサプライチェーン全般にわたる SCM マネジメントの方針を明確に掲げ、実現へのプロセスや実績をあげ公開している、等

「2」 一次納入業者にたいする SCM マネジメントの方針が掲げられ、実施体制や実績が公開されている、等

- 「1」 部分的な数字や、定性的記述が記載されている、等
- 「0」 記載なし

2) 社会・経済性側面に関わるマテリアリティ原則の適用 MAX : 10 点

- 「3」 マテリアリティ原則を認識し、選択プロセスも公開している、等
- 「2」 マテリアリティに該当するものを明示している、等
- 「1」 マテリアルと考えていることがうかがえる内容が記載されている、等
- 「0」 記載なし

3) 社会・経済性側面に関わる内容 MAX : 40 点

社会性側面

MAX : 30 点

① 雇用・労働

(5 点)

- 「3」 雇用の創出、従業員の健康・安全、ワーク・ライフバランス、多様性と機会、等々幅広く数値データとともに開示、等
- 「2」 雇用の創出、従業員の健康・安全、ワーク・ライフバランス、多様性と機会、等々についてそれなりの記述がある、等
- 「1」 上記について記述はあるが断片的、等
- 「0」 記述なし

② 人権（人権保護、ILO 重点 4 分野（結社の自由・児童労働・強制労働・差別））(5 点)

- 「3」 ILO 重点 4 分野だけでなく世界人権宣言等の精神を正しく理解し、デューデリジェンス・プロセスを構築して取り組んでいる、等
- 「2」 ILO 重点 4 分野に止まっている、等
- 「1」 同和対策等、差別対策、セクハラ、パワハラに限られている、等
- 「0」 記述なし

③ 地域社会

(5 点)

- 「3」 操業地全域で地域社会との交流があり、協働での活動も多く、地域開発にも取り組みがある、等
- 「2」 国内での交流と協働が主、等
- 「1」 お祭り等のイベントでの交流レベル、等
- 「0」 記述なし

④ 公正取引

(5 点)

- 「3」 公正取引についての方針等を開示し、全世界で展開していることが分かる情報開示がある、等
- 「2」 国内の記述はある、等
- 「1」 定性的に考え方を述べているに止まっている、等

「0」 記述なし

⑤ 製品責任・顧客満足、消費者課題 (5点)

「3」 全製品に対して製品責任を明確にする方針・仕組みが開示されており、顧客満足度や消費者課題等の調査、対応策の策定等もなされている、等

「2」 メイン製品について方針仕組みが開示されている、等

「1」 定性的な考え方を述べるにとどまっている、等

「0」 記述なし

⑥ その他の社会性項目 (3点)

「3」 大変すぐれている

「2」 普通

「1」 劣っている

「0」 記述なし

⑦ その他(社会貢献への取組、受賞歴、等) (2点)

「3」 上記のかなりについて、方針と実績についての記載あり、等

「2」 上記の一部の実績についての記載あり、等

「1」 上記について断片的な記述の記載あり、等

「0」 記載なし

経済的側面

MAX:10点

① 財務報告を超えた経済的側面の開示、および指標等についての工夫等 (5点)

「3」 財務を超えた持続可能性についての経済的側面について指標を工夫し、豊富な記述を記載している、等

「2」 上記の一部や経済効率等についての記載あり、等

「1」 定性的に若干の記載あり、等

「0」 記載なし

② 融投資にあたってのサステナビリティ配慮や、自ら運用する年金のSRI取組、等 (5点)

「3」 上記についての明確な方針と実績についての記載あり、等

「2」 上記の一部の実績についての記載あり、等

「1」 上記について定性的な記述の記載あり、等

「0」 記載なし

3) ステークホルダー・エンゲージメント(除く、環境) MAX:15点

ステークホルダー・コミュニケーションへの取組 (15点)

「3」 ステークホルダー・エンゲージメントをCSRの中心すえ、社会の期待への配慮

- がコミットされ、方針と実績が示され、会社側の対応まで記載されている、等
- 「2」 地域のみならず、多様なステークホルダーとのステークホルダー・コミュニケーションが実施されており、会社側の反応も記載されている、等
- 「1」 考え方や、地域との交流等、取組の記載あり、等
- 「0」 記載なし

4) 総合評価

MAX : 10点

上記全体を総合勘案し、かつ独自の創意工夫や先導的な試み等も考慮し、総合評価する。

ほとんどが CSR レポートにかわり、内容も充実してきているが、社会性側面については概ね下記のような考え方である。

「3」 大変すぐれている

万遍なく豊富なデータを開示し、数値情報化にも多くの努力をし、説明を加えている。

「2」 普通

一応万遍なく情報が提示され一部数値情報も提示されている。

「1」 劣っている

部分的な情報開示であり、ほとんど定性的記述にとどまっている。

「0」 記述なし

以上